

党機関紙 第31号

京都党

KYOTO PARTY
地域政党

「京都党」

Topics

- 1面・・・党大会・代表選挙の開催と結果について
- 2面・・・新人支部長の活動風景（下京）神谷修平
- 3面・・・新人支部長の活動風景（西京）河野友佳
- 4面・・・コラム 避難所は大丈夫か？パート2

党大会・代表選挙の開催と結果について

2018年8月28日、おかげ様をもちまして平成30年党大会を滞りなく開催することが出来ました。日頃からご支援いただいております京都党メンバーズの皆様ならびに応援団の皆様にごこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

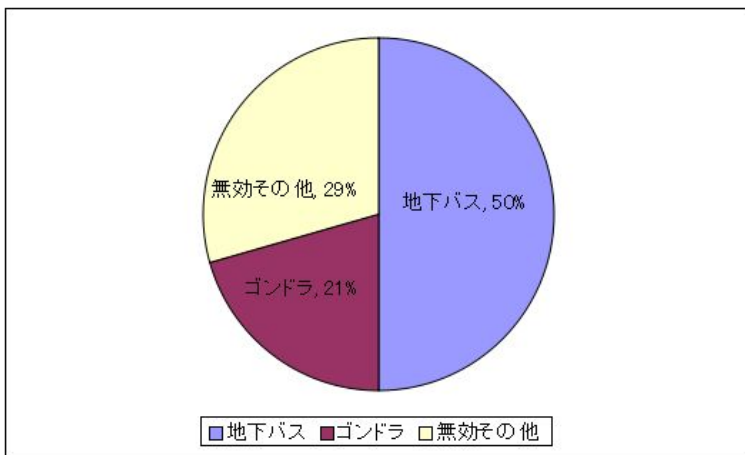
また今回は、任期満了に伴う党代表選挙が行われ、村山祥栄代表が再選いたしました。併せてご報告申し上げます

本年度は、事業報告や会計報告だけでなくアトラクションとして、「京都党新交通政策のプレゼンテーション」と「桂三風師匠の寄席」を設けました。新交通政策プレゼンテーションについては、ご来場いただいたメンバーズの皆さまにどの交通政策が良いか投票いただきました。その結果については下記に掲載しております。桂三風師匠の寄席では、時事ネタの風刺や観客参加型落語をご披露いただき、会場を大いに盛り上げていただきました。引き続き魅力的な党運営を目指してまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



桂三風師匠による寄席の様子

「未来の乗り物、あなたはどっち？」
アンケート集計結果



新人支部長の活動風景（下京・西京）

今回は新人支部長の活動や政治に対する思いをメンバーズの皆さまにもご覧いただき、ご支援の輪をさらに広げていただきたく存じます。別紙で紹介シートも同封しておりますので、**下京・西京の新人の行政区**はもちろん現職議員の**上京・中京・右京・左京**についてもご紹介いただける方がおられましたら記載いただけると幸いです。

何卒よろしくお願いいたします。

神谷修平 31歳（下京区） 京都市政に爽やかな風を



下京区は、京都党にとっては絶対に負けれない行政区です。神谷家は代々、大宮五条にて「神治屋」という瓦屋を営んでいました。そのご縁と事務所を構える光徳学区を中心に絶賛活動中です。ポスター掲示は現職議員も目を見張るものがあります！

「神谷修平」を知るQ&Aコーナー ～なぜ、いま政治なのか？～

Q：そもそも、なぜ政治家を目指すの？

A：文化財修復師として国宝なども扱ってききましたが、後継者不足と予算不足によって、京都の誇るべき文化財や伝統は失われつつあります。「一度失われたものは二度と戻ってこない」私は小学2年生の時、阪神淡路大震災で自宅が全焼したときにこのことを痛感しました。。現場でひとつひとつの文化財を修復しているだけではなく、今さえ良ければ良いというこの現状を正さなければ、文化を守れないばかりか、京都の未来はない！このような思いを強く感じ市政に挑戦する決断をしました。



Q：普段はどんな活動を？

A：ポスター掲示のお願いや挨拶まわり、街頭演説のほかに、地域のことを知るために、御神輿や消防団、体振の活動にも積極的に参加しています。接する皆様とのふれあいの中で勉強になることが大変多く、また気の引き締まる思いがします。一人でも多くの区民の皆様との出会いが最も大切であると感じ、日々活動しております！



Q：子育て中、なんですよね？

A：息子誕生を機に5か月間、会社で初の男性の育児休暇を取得しました。四六時中子どもと寄り添うことで、子どもたちのために京都の未来に責任を持たなければならない、子育て世代として抱える将来への不安を解消したいと感じるようになりました。京都党には大津議員、森議員が子育てしながらも議会で活躍されており、先輩方と一緒に子育て政策についても取り組んでいく所存です！



この友佳 32歳（西京区） 市民にもっと身近な市政を



彼女は学生時代、村山祥栄代表のもとで政治の勉強をし、その後社会に出たものの「育った街、西京区の将来」を考えるにつれ、やはり政治が未来に責任を持たねばと一念発起！ 桂坂小学校卒、中学校から大学まで同志社。2009年の市長選挙の際もウグイス議としてマイクを握ったり、支援者との折衝まで行った優秀な女性です！

「この友佳」を知るQ&Aコーナー ～なぜ、いま政治なのか？～

Q：そもそも、なぜ政治家を目指すの？

京都のために働きたい、京都を暮らしやすい街にしたい、大好きな京都を世界中の人に愛される都市にしたいという思い。そして、同世代の人たちが実際に議員として働く京都党に触発されて、自分も市政にチャレンジすることを決意をしました。また、女性からの目線も大切に、出産・子育て・介護などが女性の人生の壁にならぬよう社会全体で支え、女性がそれぞれに望む人生を実現できる京都を目指していきます。



Q：普段はどんな活動を？

A：ポスター掲示のお願いや挨拶まわり、街頭演説のほか、松尾大社の八朔祭での女神輿や近所の公園の掃除などボランティア活動にも積極的に参加しています。活動を通じて区民の皆様からご相談いただく機会も増え、先輩議員にも助けをいただきながら解決に向けて取り組んでいます。愛する地元、西京区のために全力で頑張ります！



Q：西京区をどう変えたい？

私が小さかった頃は、洛西ニュータウンには同世代の子どもがたくさんいて、活気あふれる街でした。しかし、地下鉄が洛西まで延伸しないばかりか、住民はどんどん区外へと出ていく。そして高齢化が進んでいく姿を見ると「なんとかしなくては」という思いに駆られます。中心部だけでなく西京区もインフラ、交通、教育など公平に市民サービスの恩恵を受けられる、住みやすい西京区を作ります。



新人支部長からの応援のお願い

地域政党京都党は、業界団体や組織に一切推薦を頂いておりません。そのため、地盤も後ろ盾もない草の根の活動を行っております。「知人・友人の方のご紹介」「ポスターの掲示」など、ご協力いただくと幸いです。問い合わせは党本部または各人の事務所までお願いいたします。

こちらも絶賛受付中です！



避難所は大丈夫か？パート2

前号で避難場所の受け入れ可能人員が想定避難人員を大幅に下回るという実態を紹介したが、その後、**簡易トイレの配備を2基から4基へ増やすことや学校の普通教室の開放に向けた調整**をはじめている。今回はその続きだ。

「うちの寝たきりのおじいちゃん、大丈夫？」

市内には高齢者、障がい者、妊産婦という一人で避難が困難な要配慮者が19000人いる。彼らは福祉避難所（病院、施設）へ避難するのだが、現状のルールでは一旦学校などの避難所に避難した後、数日後に福祉避難所へ移動するというルールになっている。そもそも、寝たきりの方をどのように避難所へ移動するのか。重度になると一般の避難所へ移動させることも困難で、仮に移動しても対応が出来るかかなり難しい。在宅で重度の要配慮者に対してはケースワーカーなどと事前に協議し、例えば「普段から通所しているデイサービスへ避難」というように事前調整し、自宅から直接福祉避難所への避難が出来るように提案をしている。

「自力で避難できない人はいずこに？」

彼らは、周辺住民の力を借りねば、避難出来ないが、地元は、どこに要配慮者がいるかがわからない。個人情報関係から、発災後にしか行政は情報提供できないルールになっているが、地元の名簿が届くまで最悪3日掛かるという。過日の被害が少なかった大阪北部地震でも3割の職員が出勤出来なかった。大震災ならなおのこと、彼らの救出はさらに遅れる。個人情報保護の観点は重要だが、避難は人命に関わる。地元を信頼し、名簿はしっかり託して備えるよう提言した。

今後のイベント



参加お申込書を同封いたしました。
多数のご参加をお待ち申し上げます！

【各議員市政報告会】

● 江村理紗 11月11日(日) 17:00～ からすま京都ホテル ￥5,500

※詳細につきましては議員事務所へお問合せください。

別紙にてご案内を同封しております。

地域政党 京都党

〒606-0813 京都市左京区下鴨貴船町46

TEL 075-712-9977 FAX 075-712-9963

MAIL jimu@kyoto-party.com

地域政党京都党ホームページ <http://www.kyoto-party.com/>

京都党議員団ホームページ <http://www.kyoto-to.com/>

各議員の日々の活動や動画などを随時更新
発信しております。
ぜひアクセスしてみてください！！

